





### 四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 眞実かどうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるかどうか

第 2369 回例会(令和 3 年 7 月 20 日)

#### 会長挨拶

森 はるみ

皆さん例会に出席していただきありがとうございます。今日は六曜の暦で仏滅です。知らないと気にならないけど知ってしまうと気になりますよね。仏滅も悪縁を切り、改めて人生をスタートしたいときなどには適しているそうです。人は何かを信じることでエネルギーがわくこともあります。行事やイベントを楽しむためにも、ほどほどに意識しながら六曜と付き合っていくのがいいようです。皆さんはどう思いますか。

#### 幹事報告

- 1・ガバナー事務所より
    - ・「コーディネーターニュース」2021年8月号
    - ・風の便り Vol.6 No12 (通刊82号)
    - ・ロータリー全国囲碁大会案内状
    - ・米山委員長セミナーのご案内
    - ・第54回インターアクト年次大会について 受領
  - 2・ロータリー米山記念奨学会より  
ハイライトよねやま256 受領
  - 3・第8グループより  
ガバナー公式訪問について 受領
- ☆活動計画書受領 八日市場RC

#### 卓話

「自己紹介」

中里 悦子 会員

皆さん、こんにちは。(株)千葉銀行銚子支店の中里です。大勢の皆様を前にして大変緊張しております。入会して間もないということで自己紹介を題材に今からお話しさせて



いただきます。

私は佐原生まれの佐原育ちで、現在も自宅は佐原です。私の小さいころ、両親は自宅でカバンを作っていました。祖父は桶職人で、カンナくずでよく遊んでいた記憶があります。今は、祖父も父も亡くなっていますので、特に商売は営んでおりません。

私の銀行員生活は成田支店から始まり→佐原→笹川→成田西→勝田台→成田→八千代→安食→本部→印西牧の原→酒々井で現在の銚子と計12か店です。今では貴重な昭和入行です。

古い話ですが入行するとき、そろばんがはじけることが必須でしたので、そろばんの経験がなかった私は、母親と毎日そろばんを練習したことを覚えています。

入行してさまざまな経験をしてきました。入行したころは、お金を数えて、整理する業務を担当していました。今まで、見たこともない札束と硬貨の量に驚いたと同時に、慣れてくるころには札束が「お金」という意識がなくなり、ただの物と化していました。若いころから現在に至るまで失敗の繰り返しでした。でも、まわりの上司、先輩、同僚、お客様に助けていただいたからこそ今があると実感しています。

私が入行したころは今と違って、結婚したら退職、子どもができれば退職というような時代だった気がします。毎月、月末に送別会があった記憶があります。幸いにして私は同居でしたので、仕事を続けることができました。その当時は特に定年まで仕事を続けるという強い意志はなかったのですが、家に義母がいましたので、家の中に二人も女性がいると争いのもとになると周りからアドバイスがあり、そのまま仕事を続けていました。

そのころ、育休などの制度はあってもなかなか取得しづらい風潮であったため、産前6週、産後8週のお休みをとって仕事をつづけました。家族のサポートがあったからこそ今があると思います。今でこそ、働き方改革で定時退行、休みたいときに休めることはふつうですが、そのころは、残業当たり前の時期で、子どもの学校行事にもあまり行けていなかったのが実情です。二人の子供には申し訳ない思いでした。今となれば、同居していた義父や義母も相当大変だったと思います。私は二人の子供を生むだけで、育ての親は義理の両親だったのは間違いないです。

余談ですが現在当行では産休、育休もそうですが、つわりなどで体調不良時の休暇や、不妊治療のための休暇、家族が病気やケガをした場合看病するための休暇など制度休暇が充実してきています。また、男性の育児休暇も取得促進しています。育児休業明けの復帰をスムーズにするための研修や、時には両立に悩んでいるお母さんに対しての面談など、家事・育児との両立でなるべくスト

レスなく働けるようサポートする体制や制度の構築を図っています。

この4月から銚子支店勤務となり、初めて単身赴任という経験をしています。初めて佐原ではない町に住めるということでとても新鮮ですし、銚子といえばおいしいものがたくさんありますのでワクワクして着任しました。ただ、現状はコロナ禍ということで銀行とアパートを往復するだけで終わっています。コロナが落ち着いたらいろいろなお店に行ってみたいと思います。その際は皆様に美味しいお店を紹介いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

私の生まれ育った「佐原」について紹介したいと思います。

佐原は観光に力をいれておりまして、「小江戸佐原」と呼ばれています。また、伊能忠敬記念館もあり、都心から約2時間程度ということで、街中には観光客の姿が見受けられます。コロナ禍になる前は、外国人観光客も大型バスに乗っていらっやっていました。昨年の春先に初めての緊急事態宣言が発令されたときは、ほとんど観光客の姿はなく、街がひっそりしていましたが、現在は少しずつ、佐原を訪れる方が増えてきていると感じます。

また、佐原はお祭りも年間行事のなかで一大イベントとして位置付けられています。かくいう私も小さいころから若かりし頃まで、お祭りを楽しんでいました。お祭りをきっかけに、お嫁に行くことができ、二人の子供にも恵まれました。

川越氷川まつり、石岡の祭り、佐原の祭りで関東三大祭りとしてされています。2016年にはユネスコ世界無形文化財に指定されました。

佐原のお祭りは年2回開催されます。7月の第二金土日は八坂神社の祭礼、10月の第二金土日は諏訪神社の祭礼です。佐原には小野川という小さい川があるのですが、その川を境とし地域を二つに分けています。小野川の川沿いには柳が立ち並んでいて、観光の一環として「さっぱ船」という船で周遊できます。船の漕ぎ手はベテランの娘船頭さんです。夏のお祭りは本宿区、秋のお祭りは新宿区といってそれぞれ山車を各町内により引き回されます。

山車には大人形が飾られています。夏のお祭りは10台の山車、秋は14台の山車が佐原の街を引き回されます。山車の大きさは大体、高さ約7メートル、重さは約4トンです。それぞれの町内によって大きさは違いますが、車輪の大きさや、山車にある彫り物も違います。

お祭りは午前10時から夜の10時までで、その間は通行止めになります。町全体がお祭り一色に成ります。

私も、幼稚園に入る前から山車について聞いていました。おやつが出ることも目的の一つではありましたが、やは

り小さいころから慣れ親しんだお囃子を聞くと血が騒ぐといいますが、朝、山車蔵を出発してから、夜、お祭りが終わるまで親からもう帰ろうと言われるまで、帰りませんでした。子どもが生まれてからも子連れで参加していましたが、今は体力の限界を感じて引退しています。

次に佐原の偉人である「伊能忠敬」を簡単に紹介します。

生れは九十九里だそうです。佐原の酒造家である伊能家の婿養子となり佐原に移り住んだそうです。忠敬が17歳の時です。伊能家は酒造業、貸金業を営んでいたそうです。当時名主として経営手腕を発揮し、隠居時には資産が約30億～35億あったと言われています。50歳のころ、江戸にて天体観測屋や測量の勉強を始めます。その後、55歳の時内弟子3名を引き連れて測量作業にむけ蝦夷地へ出発しました。約17年かけて日本全国を測量して「大日本沿海輿地全図」を完成させましたそうです。詳しくは佐原に伊能忠敬記念館がございますのでお立ち寄りください。

佐原駅を降りると、伊能忠敬の記念碑がお迎えています。余談ですが、最近、某地方銀行のCMに伊能忠敬が登場しています。地元民としては、非常に残念ですが千葉銀行ではありません。

このコロナ禍で昨年に続き、ほとんどの地域で祭事が見送られるとのこと。コロナ疲れといいたいでしょうか、疲弊感も限界になろうとしているかと思えます。

コロナ禍が収束し、佐原だけではなくもちろん銚子もですが地域全体が盛り上がるような日常を取り戻せることを願い、私のつたない卓話を終了させていただきます。

#### 2020—21年度出席優秀者表彰

35年表彰 澤田 武男 会員

15年表彰 宮内 博 会員・石井 哲也 会員

5年表彰 石毛 園子 会員



出席優秀者 3名 (敬省略)

長谷川 弘 石毛 正明 山本 嘉一郎

